

母子・父子自立支援員からみた シングルマザーのキャリア開発

平成28年3月16日

野田市母子・父子自立支援員
田中 恵子

我が国の母子家庭支援策

児童扶養手当中心
の支援



就業・自立に向けた
総合的な支援

①子育てと
生活支援

②就業支援

③養育費
の確保

④経済的
支援

母子家庭の母の就業状況 ⇒ 約80.6%が就業

- ・正規の職員・従業員…… 39.4%
- ・自営業…… 2.6%
- ・パート・アルバイト等…… 47.4%
- ・就労収入の平均は…… 181万円



経済的に自立することは難しい

野田市の取り組み

- 平成14年から「ひとり親家庭支援総合対策プラン」
(平成27年3月に第3次改訂版)を策定
- 総合的・計画的にひとり親家庭の自立を支援

就業支援

- 就業相談や求人情報の提供
- 母子・父子自立支援プログラム策定事業
- 自立支援教育訓練給付金事業
- 高等職業訓練促進給付金事業
- 市独自の事業
 - ・就業支援パソコン講習会
 - ・ひとり親家庭向け求人の開拓等

離婚前・未婚等

夫婦間の悩み・養育費
子どもの親権・出産・認知
DV問題・離婚後の生活

ひとり親の申請手続き

保育所・学校
住宅・就業
子どもの養育

■ 傾聴と受容 ■ 精神的な支援 ■ 阻害要因の把握

- ひとり親家庭の支援
- 養育費⇒法律相談
- 住宅⇒家賃助成・公営住宅
- 保育所・学童保育の入所
- 就業支援
- 職業訓練
- 貸付
- 家庭訪問

離婚前相談の例

さまざまな悩みを傾聴

落ち着いた時点で現状を理解

生活展望

就業について

職業訓練活用による就業支援

ひとり親家庭の例

ひとり親家庭施策の説明

生活展望

阻害要因の相談

就業について

職業訓練活用による就業支援

- **自分は何をしたいのか、何が出来るのか**
- **10年後、15年後になりたい自分をイメージする**
- **資格取得へのステップ方法を考える**
- **目標設定⇒ アンテナを立てる**

- **本来の自分を取り戻す**
- **自分自身が持っている力を引き出す**
- **将来自分になりたいと思う自分を目指す**
- **生きがいのある生き方をする**

職業訓練の支援

- 職業選択の相談
- 就業に役立つ資格取得
- 訓練機関の案内
(給付金の相談)
- 修業にかかる費用の相談
(貸付)

求職活動の支援

- 就業に関する相談
- プログラム策定
- ハローワークの情報収集
- 求人開拓の情報提供

普段の行動の中に社会人としての基礎的な能力の違い

書類の記載

- ・ 正確に書く
- ・ 誤字が多い

面接の約束

- ・ 時間通りに来る
- ・ 連絡なしで来ない

対話

- ・ 落ち着いて話す
- ・ 感情的になる

経済的に「自立している人」と「自立していない人」との相違点は？



母の行動（態度）と経済的な自立との関係を分析



行動（態度）観察の結果と経済的自立との関係に焦点をあてる

「母子自立支援員からみた母子家庭の母の経済的自立」に関するアンケート調査の実施（2013年6月～11月）

・対象者	千葉県(49人)・東京都(16人)の母子自立支援員
・調査方法	・「経済的に自立している人」と「自立していない人」を各々3名個人別に調査票に記入してもらい、郵送で回収
・質問項目	<ul style="list-style-type: none">① 母の属性② 相談時期・相談内容・自立に至るまでの期間③ 具体的な就業支援策・取得資格の状況④ 自立への阻害要因⑤ 母子家庭の母との面談をして感じる行動面での特徴である
・経済的に自立している人とは	「本人所得で児童扶養手当が全部停止になった人」 (扶養義務者の所得によって全部停止になった人は除く) 生活保護受給者は除く

母子家庭の母の経済的自立と属性

経済的自立状況	<ul style="list-style-type: none">・「自立している人」が30.6%で、「自立していない人」が69.4%である・年齢別では 35歳～55歳未満までは「自立している人」の方がやや多い
子どもとの関係	<ul style="list-style-type: none">・子どもの学校の入学時期(高校や小学校)が自立の契機となっている・末子年齢が低いうちは、「自立していない人」が多く、子どもの年齢が16歳以降になると「自立している人」の割合が高くなる傾向にある
母の最終学歴と経済的自立との関係	<ul style="list-style-type: none">・専門学校卒と大学卒は 経済的な自立の割合が高い・高校卒と短期大学卒では、「自立している」「していない」がほぼ同レベル・中学卒は、ほとんどが「自立できていない」。・専門学校卒は専門的能力を身につけ、それを生かして経済的自立にたどり着いている人が多い
母子家庭になってからの期間との関係	<ul style="list-style-type: none">・「自立している人」は5年以上が多く3年未満の経済的な自立は実質的に難しい・雇用形態「自立している人」 正社員が一番多い・「自立していない人」はパート・アルバイトが一番多い

経済的自立×雇用形態×現在の職業

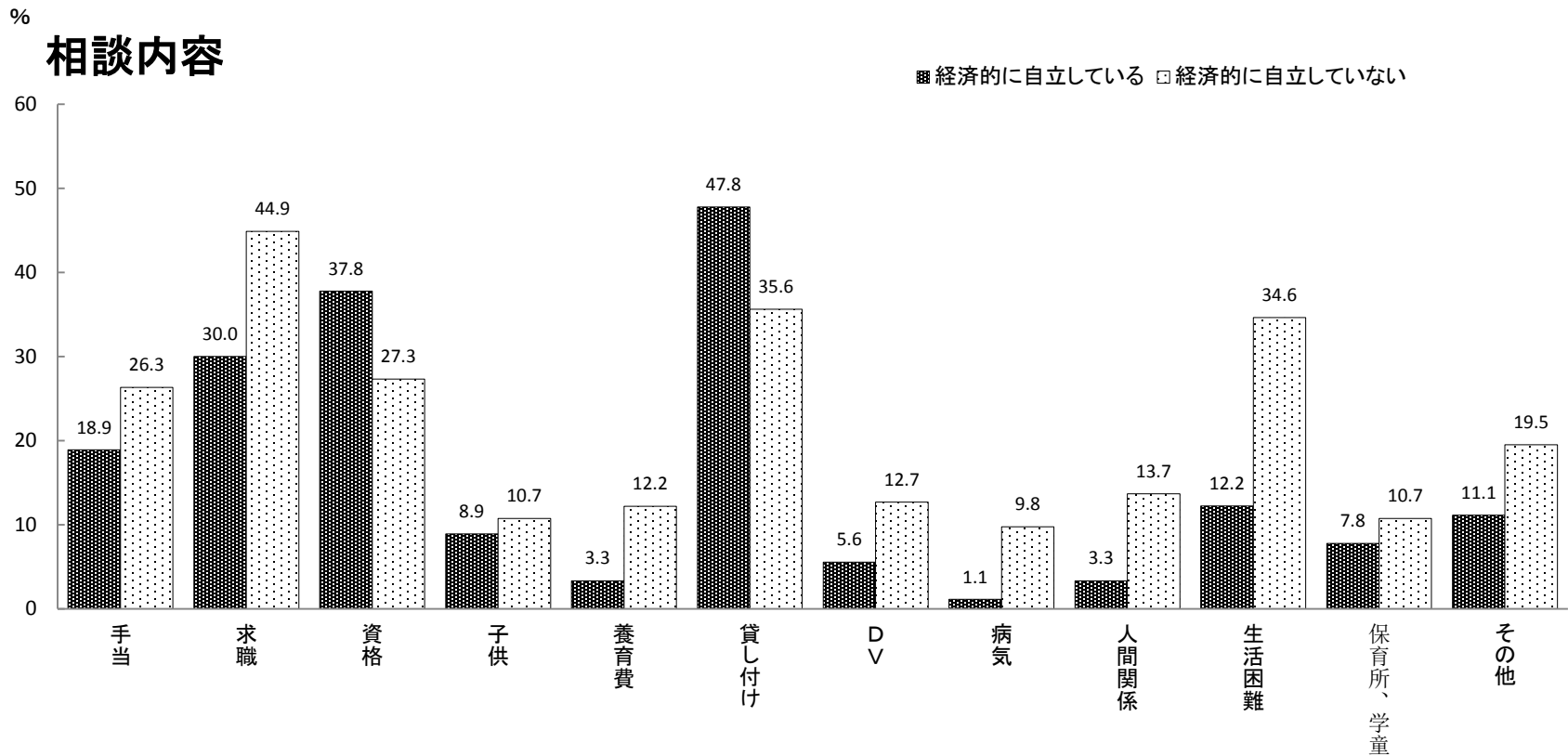
経済的自立別雇用形態別現在の職業（n・%）

		管 理 的	専 門 的 ・ 技	事 務	販 売	サ ー ビ ス	保 安	農 林 漁 業	生 産 工 程	材 輸 送 ・ 運 転 機	建 設 ・ 採 掘	無 職	合 計
経済的に 自立して いる	正社員	0.0	72.1	19.7	1.6	3.3	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	61
	準社員・派遣	0.0	40.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10
	パート・アルバイト・嘱託	0.0	27.8	5.6	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18
	合計	0.0	59.3	16.5	6.6	12.1	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	89
経済的に 自立して いない	正社員	0.0	55.3	18.4	2.6	21.1	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	38
	準社員・派遣	0.0	15.8	47.4	21.1	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19
	パート・アルバイト・嘱託	0.0	17.3	16.3	19.2	36.5	0.0	1.0	4.8	1.9	0.0	0.0	101
	無職	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	40
	合計	0.0	20.9	16.5	12.1	23.8	0.0	.5	2.9	1.0	0.0	19.4	198

■「自立している人」の特徴は正社員で専門的・技術的職業に就いている人が占める

■「自立していない人」はパート・アルバイト・嘱託でサービス職・販売職に就いている人が多い

相談内容と経済的自立

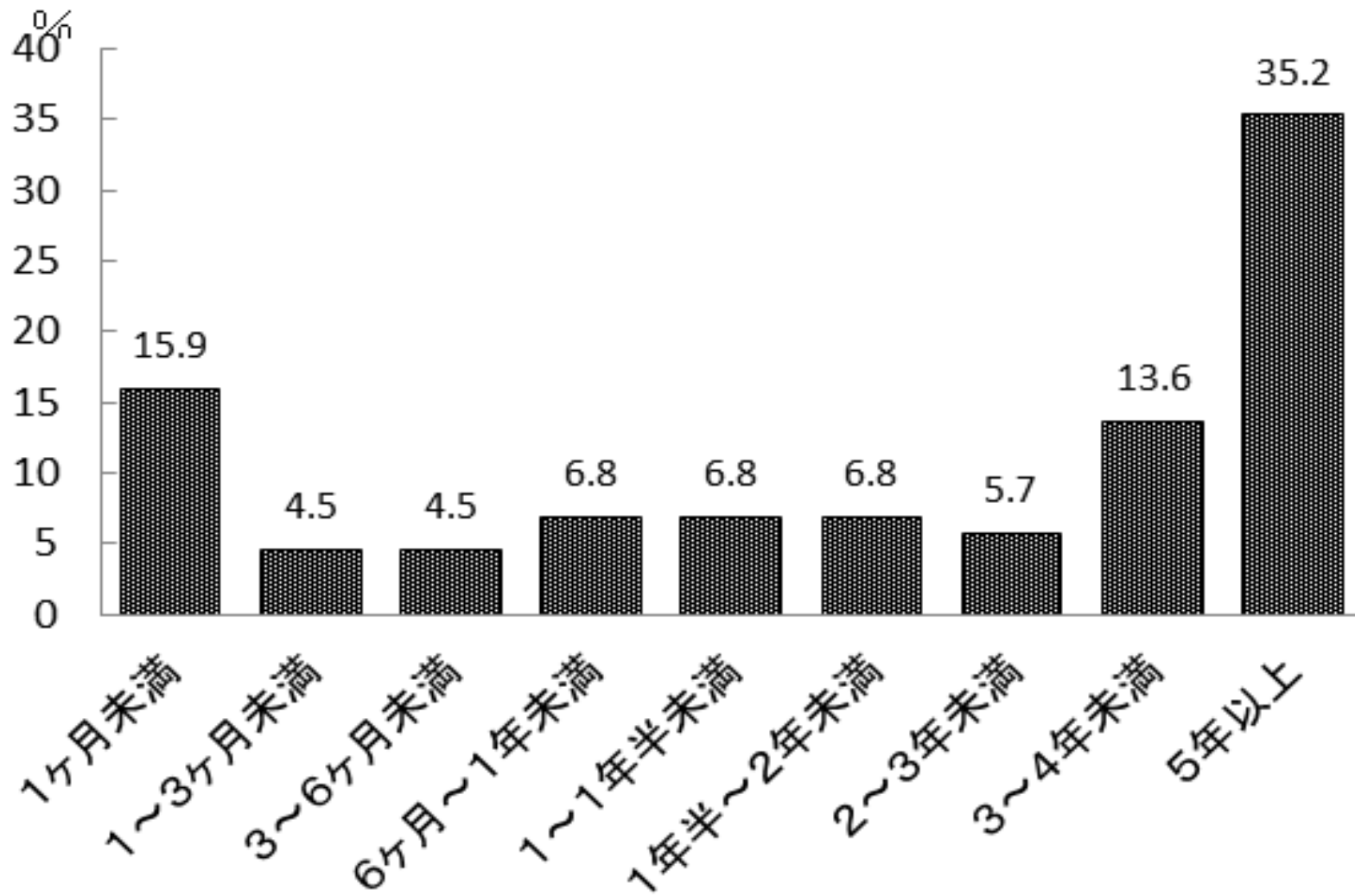


■「自立している人」は貸し付け (47.8%) や資格 (37.8%) についての相談が多い

■「自立していない人」は求職 (44.9%)、生活困難 (34.6%)、手当 (26.3%) についての相談が多い。

経済的自立までの期間

母子家庭になってから自立までの期間



事例1

看護師 子ども2人 経済的自立まで13年

離婚後⇒准看護学校(2年)⇒看護学校(2年)⇒
⇒就職(8)

事例2

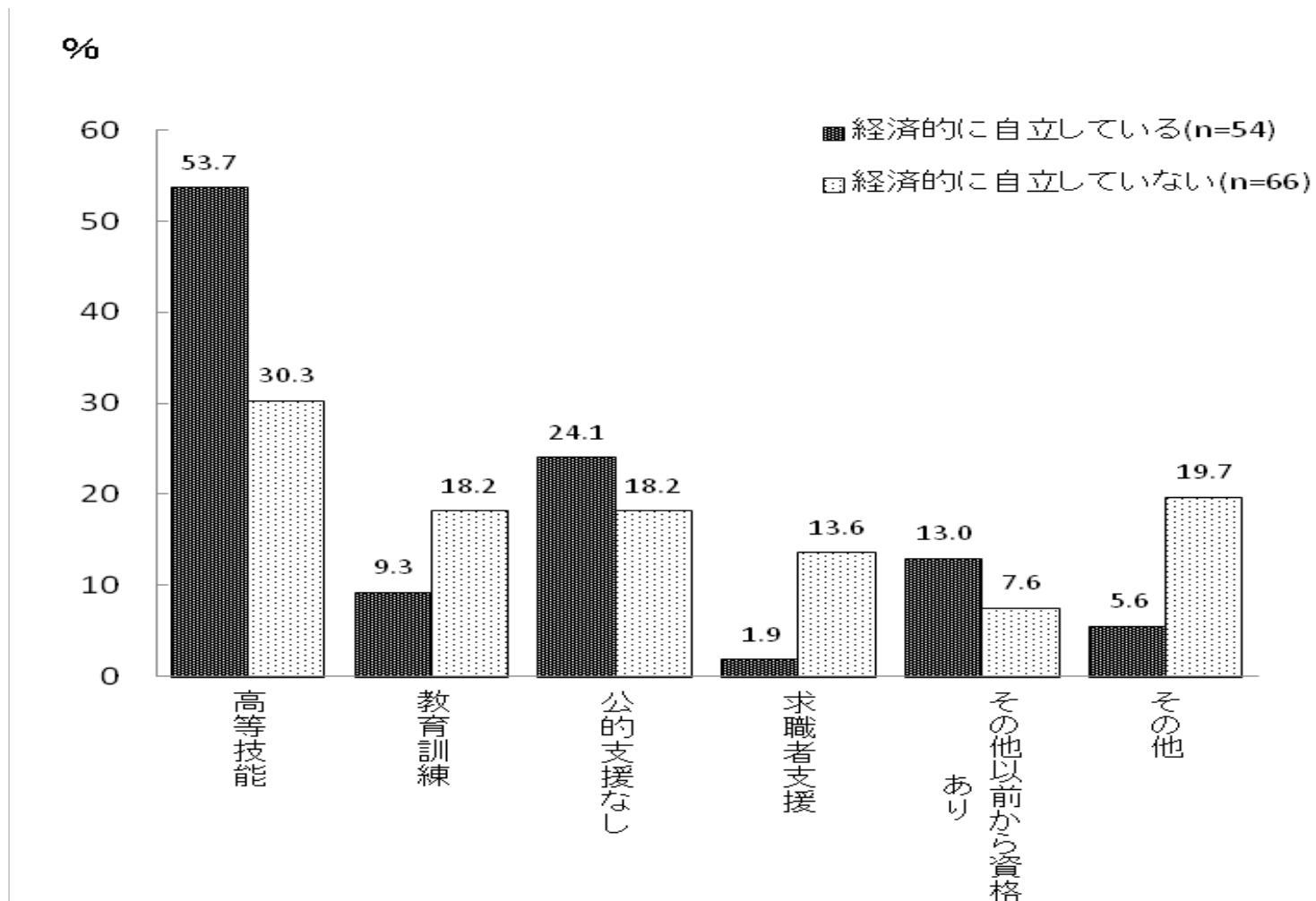
教師 子ども2人 経済的自立まで10年

離婚後⇒転職⇒無職⇒パソコンの資格取得
⇒大学の通信教育で編入(2年)⇒就職(3年)

経済的自立ができるまでにかかなりの時間を要する
ため長期継続的な支援が求められる

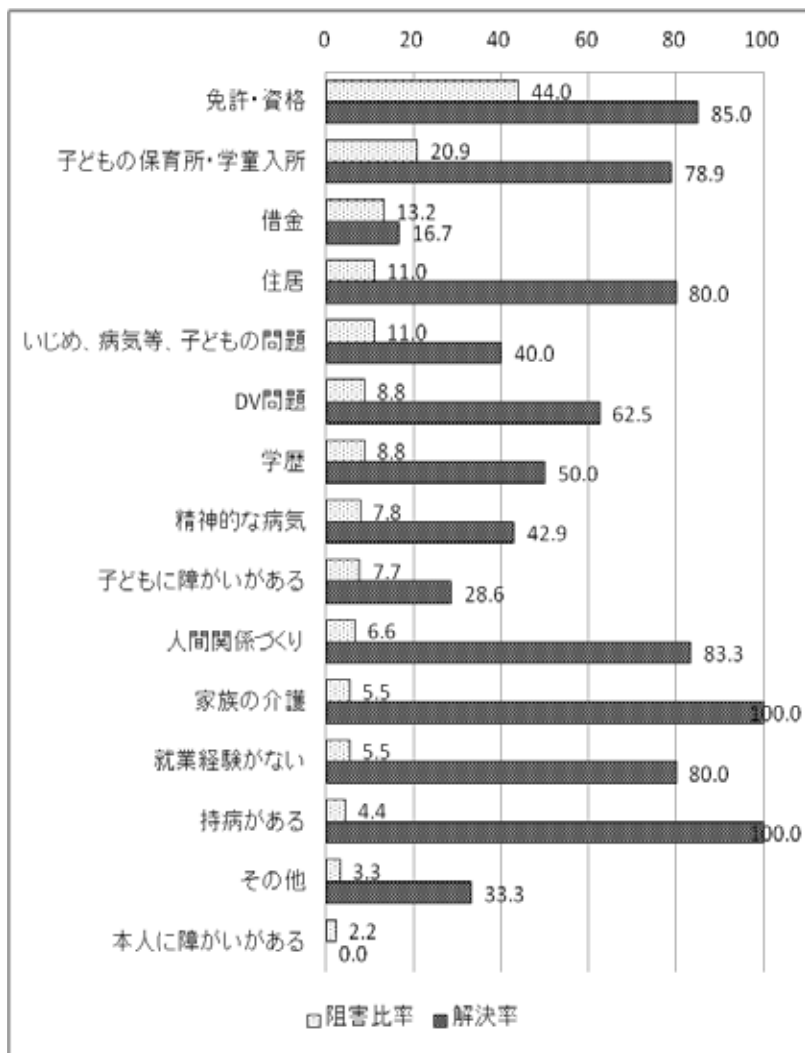
経済的自立と職業資格・免許などの取得との関係

経済的自立と職業資格・免許などの取得方法

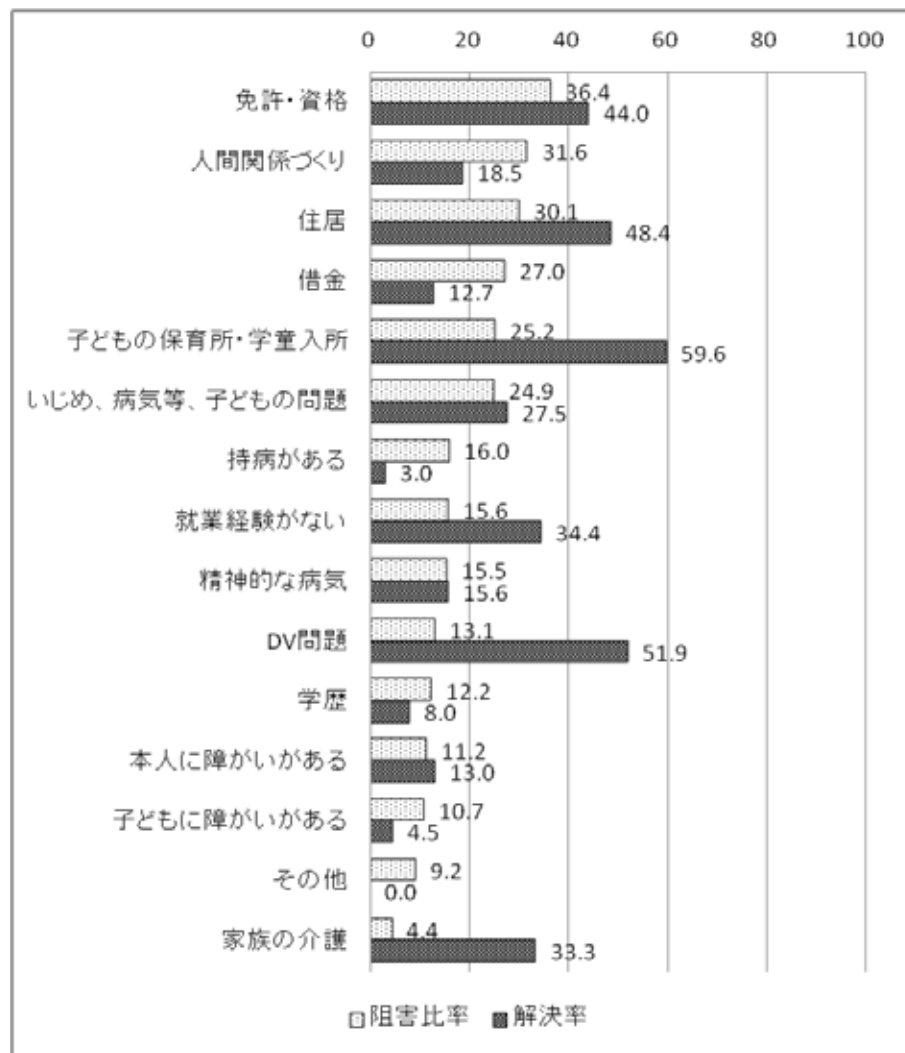


阻害比率と解決率

自立している



自立していない



注) 阻害比率=(解決できた+解決できていない)/(解決できた+解決できていない+阻害要因ではない)×100
 解決率=解決できた/(解決できた+解決できてない)×100

経済的に自立するために阻害要因となっているもの

「自立している人」

1位

- 「免許・資格」の阻害比率44.0%、その解決率は85.0%

2位

- 「子どもの保育所・学童入所」の阻害率20.9%、解決率78.9%。

3位

- 「借金」で13.2%これの解決率は16.7%。

「自立していない人」

1位

- 「免許・資格」阻害比率36.4%、解決率44.0%

2位

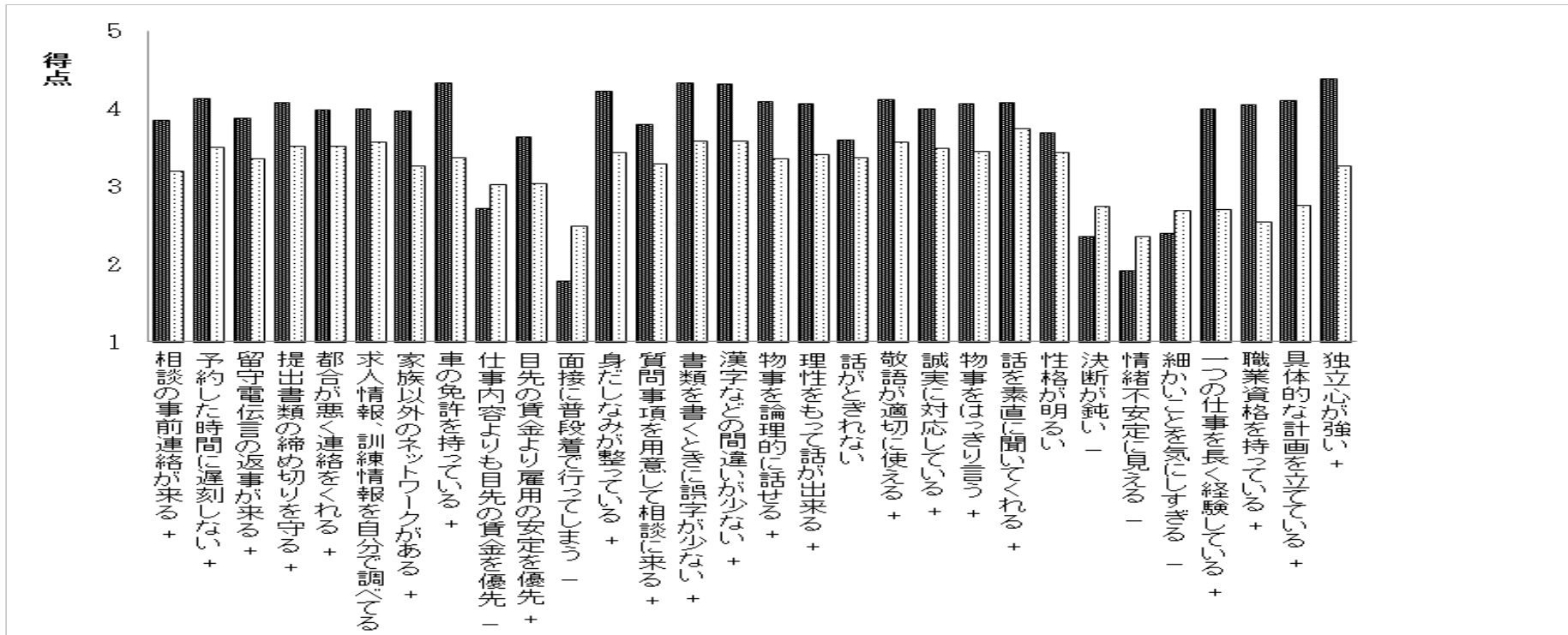
- 「人間関係づくり」 阻害比率が31.6%、解決率が18.5%

3位

- 「住居」で阻害比率30.1%、解決率48.4%

行動面での特徴

母との面談で感じたことや行動面での特徴



■経済的に「自立している人」と「自立していない人」とで比較してみると、
 全体的に「自立している人」の平均点の方が「自立していない人」よりも高い傾向にある。

* 5段階評価の平均点(良くあてはまる:5点、ややあてはまる:4点、どちらともいえない:3点、
 ややあてはまらない:2点、全くあてはまらない:1点と得点化)

- ・(+)は自立している側に平均値の有意差(0.05)があるもの
- ・(-)は自立していない側に平均値の有意差(0.05)があるもの

「自立している」と「自立していない」との得点差が大きい順

ベスト10

- ①「職業資格を持っている」
- ②「具体的な計画を立てている」
- ③「一つの仕事を長く経験している」
- ④「独立心が強い」
- ⑤「車の免許を持っている」
- ⑥「身だしなみが整っている」
- ⑦「書類を書くときに誤字が少ない」
- ⑧「物事を論理的に話せる」
- ⑨「漢字の間違いが少ない」
- ⑩「家族以外のネットワークがある」

マイナス側 の特徴は

- ・「面接に普段着で行ってしまう」
- ・「情緒不安定に見える」
- ・「決断が鈍い」
- ・「仕事内容よりも目先の賃金を優先」
- ・「細かいことを気にしすぎる」

**職業能力開発以前の基礎的な能力を
取得できるようなプログラム開発の重要性**

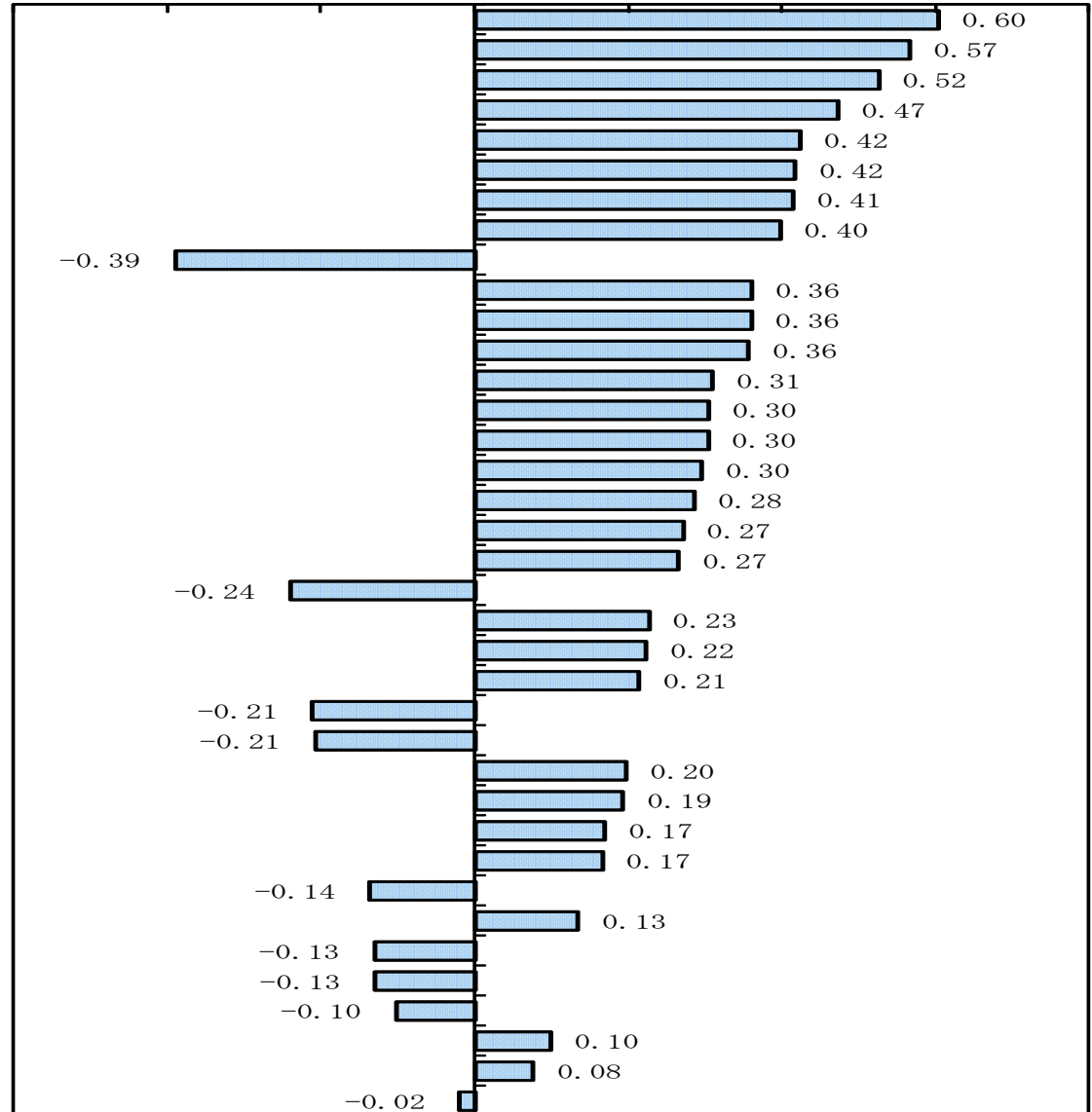
正準判別分析の結果

自立していない

自立している

-0.60 -0.40 -0.20 0.00 0.20 0.40 0.60 0.80

職業資格を持っている
一つの仕事を長く経験している
具体的な計画を立てている
独立心が強い
書類を書くときに誤字が少ない
身だしなみが整っている
漢字などの間違いが少ない
家族以外のネットワークがある
面接に普段着で行ってしまう
物事を論理的に話せる
物事ははっきり言う
車の免許を持っている
理性をもって話ができる
敬語が適切に使える
目先の賃金より雇用の安定を優先
予約した時間に遅刻しない
専門学校タミー
相談の事前連絡が来る
提出書類の締め切りを守る
情緒不安定に見える
求人情報_訓練情報を自分で調べてる
質問事項を用意して相談に来る
誠実に対応している
中卒タミー
決断が鈍い
留守電伝言の返事が来る
都合が悪く連絡をくれる
大卒タミー
話を素直に聞いてくれる
子供の人数
性格が明るい
細かいことを気にしすぎる
仕事内容よりも目先の賃金を優先
高卒タミー
年齢
話がとぎれない
短大卒タミー



経済的「自立している人」の特徴

職業資格がある

一つの仕事を長く
経験している

具体的な計画を立
てている

独立心が強い

家族以外のネット
ワークがある

身だしなみが
整っている

導き出された経済的自立に必要な要素とは

- 一定の社交能力と社会的な信頼関係の構築力
- 維持能力が背景に信頼できる友人がいる
- 知人などの情報入手経路がある
- 自分なりの考えをもち、自分の気持ちを明確に
意思表示できる
- 職務経験を通して協調性や自律性を身につけている

■社会的な常識や基礎的な能力が欠如していると採用には至らない。

■挨拶をはじめ、電話の対応、接客、事務能力などは、現行職業訓練では習得することが出来ない能力が求められる

■学歴が影響しない短期間の職業訓練では資格を生かして経済的自立に繋がる職業に就くことが難しい

現在の職業訓練



専門性を高め就業に結びつける支援が主となっている

- 経済的自立が困難とされる低学歴層への働きかけ
- 基礎的能力と社会性が学べる教育システム
- 生涯発達キャリアを意識した支援



弱味を把握し母のレベルに合わせた
段階的な就業支援プログラムの開発が望まれる

- 多様な相談ニーズに応えられる人材育成
(長期間の経験)
- 資質向上のための研修機会の増大
- 継続して支援のできる環境作り(雇用契約期間)

ご清聴ありがとうございました

